

2018年度しあわせ研究

屋上コミュニティガーデンをつくる
～生けるものの「しあわせ」を目指して～

研究員 明石修

真名垣聡、八島亮子

住田優、足立恵介



現代社会は、特に都市において人々は自然とのつながりや人とのつながりを感じにくくなっています。これらのつながりを取り戻すことが、人のしあわせにとって重要です。とりわけ（満たされない日常を穴埋めするような非日常的レジャーではなく、）暮らしのなかでの自然や人との豊かなつながりが、人々の心の充足にとって大切であると考えられます。

そこで本研究では、自然とふれあうこと、人とのつながりを感じることを目的として、大学教職員や学生にとっての日常の場である大学屋上にコミュニティガーデンをつくり、そこでの交流や協働活動を行いました。また、「生きとし生けるものが幸せでありますように」という願いのもと、多様ないきものが生息できるいのちの場づくりを行いました。具体的には、パーマカルチャーの手法（人と自然が豊かに共生するための環境デザイン手法）を用いて、自然農法の畑づくり、雨水利用、いのちの循環するコンポストづくり、みつばちの飼育（養蜂）を行いました。そこでは、菜園の雑草、大学周辺の落ち葉、ロハスカフェの野菜くずな

どのちあったもの（有機物）が土に還り、次の命を育みます。また、みつばちをはじめ、虫たちが花粉を運び、環境をつくりまします。人はその自然の恵みとして、野菜をいただきます。そのような循環が都市の屋上で起こっています。

そのような自然の循環を体験できるようなイベントやワークショップを開催しました。具体的には、学生や教職員が自由に屋上ガーデンを訪れ、場を楽しんだり、共同作業を行ったりすることができるオープンデイの開催、野菜の植え付けや収穫などの農作業体験イベントの実施、ロハスカフェとコラボレーションによる屋上野菜やはちみつを使った特別メニュー（夏野菜カレーやはちみつプリン）の開発と提供などを行いました。その他、学外の方を対象にワークショップやセミナーを多数開催しました（NPO 法人ワールドユースジャパンとの共催による食とサステナビリティについてのワークショップなど）。また、この活動を通じて得られた知見をもとに、講演会や中学校高校での出前授業を行いました（栃木県立佐野高等学校など）。

コミュニティガーデンでの活動の様子は、日本テレビ news every. (『いまどき！おいしい学食探検』(2018年7月31日放送)) で紹介されました。